

ブロッコリー栽培と防除歴防除について

高崎市農業協同組合

秋冬ブロッコリー作型（主な品種）

- 11月～12月収穫 「おはよう」「ファイター」「グランドーム」
- 12月～ 1月収穫 「アーサー」「こんにちは」
- 1月～ 3月収穫 「クリア」「こんばんは」 など

○育苗（セルトレイ育苗）・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・

（1）播種

- ・培養土は水はけのよい、市販のセルトレイ用のものを使用する。
（例）日肥良菜培土 SP200 ← 1袋で約7枚作れます。
- ・発芽までは乾燥させないように灌水し発芽するまで灌水を控える。
- ・セルトレイは直接地面に置かず、15cm以上空間をあけてトレイの下に根が伸びないようにする。
- ・育苗は、雨にあたらぬようにハウスやトンネル内で行う。

（2）育苗管理

- ・発芽後の灌水は午前中（早朝）と正午過ぎに行う、徒長の原因となるので夕方の灌水は控える。



○施肥・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・

- ・堆肥は30日前、元肥は10日～15日前まで施用しておく。
- ・元肥と追肥合わせて10アールあたり窒素20kg—リン酸25kg—カリ20kg程度を目安とする。

○定植・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・

- ・定植適期は本葉3枚～3.5枚頃、老化苗にしないよう植え遅れない。
- ・定植前に苗を外気や光線にあて慣らしておくこと定植後に枯れにくくなる。
- ・日中の暑い時間は避けてなるべく夕方に定植作業を行う。
- ・遅くとも定植前日には灌水処理を必ず行い害虫による食害を防ぐ
（プレバソンフロアブル・ジュリポフロアブルなど）
- ・栽植密度はうね幅65～70cm、株間35～40cmを基準に品種・播種時期・地力に応じ調整する。

○土寄せ・追肥・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・

- ・活着後15日位してから1回目の追肥を実施する、追肥は窒素成分で3kg/10aを目安に施肥する。
（NK17・硫安など）
- ・追肥後、倒伏防止と除草を兼ねて管理機で土寄せをする。
- ・茎葉はうね間を覆う時期に土寄せ作業を行うと、葉を傷めたり根を切ってしまう恐れがあるので、作業適期を逃さないようにする。
- ・土寄せをしないと根に酸素が行かなくなり生育が停滞するので必ず1回は実施する。

○主な生理障害・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・

・ボトニング



<発生要因>

- ・品種に合わない播種時期に播種したため。
- ・老化苗を植えたため。
- ・寒さにあたり葉数が少ない状態で花芽ができたため。

<防除策>

- ・品種に応じた播種適期を守り播種する。
- ・老化苗にならない前に定植作業をする。

○主要病害虫・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・

・べと病



<発生要因>

- ・10度～15度の比較的低温で発病し、降雨の続く春と秋に発生しやすい。
- ・葉に多く発生する、葉裏に汚白色で霧状のカビが生じる。

<防除策>

- ・発病しにくい品種を選んで作付する。
- ・過剰施肥にならないようにする。
- ・多発した圃場では連作をさける。

・ハスモンヨトウ



<防除策>

- ・初期防除として定植前の苗に灌注処理を行う。(プレバソフロアブル・ジュリポフロアブルなど)
- ・葉裏に住み着くので防除の際は葉裏にかかるよう散布する。
- ・散布には農薬と共に展着剤を入れると効果が高まる。(ニーズなど)

★資材・農薬などは最寄りの JA アグリセンターで購入できます。★

東部営農センター 住所：高崎市島野町 204-4 TEL：027-352-5466

北部営農センター 住所：高崎市浜川町 28 TEL：027-343-8991